

平成30年度

山梨県学力把握調査結果の 概要

山梨県教育委員会

1 調査の概要

○目的

- ・節目の学年における児童生徒の学習の状況を把握するため、調査を実施し、結果の分析を通して、早い段階から学習内容の不十分な理解を解消するなど、きめ細かな指導に役立てる。
- ・授業における指導方法や学校、家庭、地域における学習環境の改善に資する。

○調査の対象等

区 分	小学校第3学年	小学校第5学年	中学校第2学年
対象教科を実施した児童生徒数	6,221 人	6,502 人	6,520 人
対 象 教 科	国語・算数	国語・算数	国語・数学・英語
調査問題の範囲	小学校第2学年までに学習した内容	小学校第4学年までに学習した内容	中学校第1学年までに学習した内容

※本年度は、昨年度に引き続き、授業改善の進捗状況を具体的に把握するために、過去調査（山梨県学力把握調査 H23～H29、全国学力・学習状況調査 H19～H29）で出題された設問を基に調査問題を作成した。

○調査日時

区 分	小学校	中学校
実 施 日	4月17日（火）	
調 査 教 科 （実施時間）	国語（40分）	国語（45分）
	算数（40分）	数学（45分）
	—	英語（45分）

※全国学力・学習状況調査と同一日に実施

2 教科に関する結果

○全体の概要

- ・全体的に改善の傾向が見られる。7教科中6教科（小3国・小3算・小5国・小5算・中2数・中2英）で、平均正答率が過去平均正答率を超えている。

※「過去平均正答率」とは、設問ごとの過去の正答率を平均した値であり、次の式で算出したものである。（過去平均正答率）＝（各設問の正答者数の総数）÷（各設問の実施人数の総数）

※過去の各種調査の実施人数は年度によって異なる（約900人～約10,000人）。そのため、設問ごとの正答率の平均が、過去平均正答率にはならない。具体的には、小学校第5学年算数において、正答率が上昇している設問が多く、設問毎に見ると、過去調査より課題が改善されていることが分かる。一方で、上記の式で過去平均正答率を算出すると、H30平均正答率と値がほとんど変わらない結果となる。その要因は実施人数（母数）の違いから生じるものである。

- ・過去調査より正答率が上昇している設問が数多く見られる一方、経年的に正答率が低い設問や無解答率が高い設問もあり、今後も継続した授業改善への取組が必要である。

○各教科の結果

	小学校第3学年		小学校第5学年		中学校第2学年		
	国語	算数	国語	算数	国語	数学	英語
平均正答数／設問数	18.0 ／23	12.0 ／16	15.4 ／23	11.7 ／16	13.0 ／21	12.0 ／20	21.3 ／31
平均正答率 (%)	78.4	75.0	66.9	73.0	61.8	59.9	68.7
過去平均正答率 (%)	74.5	67.1	64.0	72.9	65.5	50.1	62.6

※参考

過去調査より正答率が 上がった設問の数／設問数	9 ／23	13 ／16	12 ／23	15 ／16	9 ／21	16 ／20	25 ／31
----------------------------	----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------

○各教科の概要 (p. 4以降の各教科調査結果の分析から)

- ・国語では、漢字を読むことについて学習内容が定着している。一方で、小学校低学年は主語と述語の関係について、小学校高学年・中学校は語句（故事成語、慣用句、熟語等）の使い方について課題が見られる。
- ・算数・数学では、小学校は計算の技能について、中学校は図形の性質について基本的な学習内容が定着している。一方で、小学校は図形の構成要素や性質の学習内容について、中学校は計算の技能や文字式で表すことについて課題が見られる。
- ・英語では、小学校外国語活動で慣れ親しんできた表現について学習内容が定着している。一方で、会話文を読み取り、状況に合った英文を書くことについて課題が見られる。

○無解答率の減少が見られた設問 (記述式の問題形式)

小学校第3学年・算数	9 (2)	記述式	無解答率	1.7ポイント減少
小学校第5学年・国語	11一	記述式	無解答率	1.9ポイント減少
小学校第5学年・国語	12二	記述式	無解答率	2.3ポイント減少
中学校第2学年・国語	2三	記述式	無解答率	5.8ポイント減少
中学校第2学年・国語	4三	記述式	無解答率	0.7ポイント減少
中学校第2学年・数学	4 (3)	記述式	無解答率	29.8ポイント減少
中学校第2学年・数学	5 (2)	記述式	無解答率	0.2ポイント減少
中学校第2学年・数学	6 (2)	記述式	無解答率	0.3ポイント減少
中学校第2学年・英語	9	記述式	無解答率	5.6ポイント減少
中学校第2学年・英語	10 (1)	記述式	無解答率	1.7ポイント減少
中学校第2学年・英語	10 (2)	記述式	無解答率	0.9ポイント減少

3 結果を踏まえた取組

①結果分析・公表

- ・管理職研修会（6月5日：校長，12日：教頭 実施）
各学校の管理職に向け，課題となる設問を基にした授業改善の取組について，学校で組織的な対応が図られるよう具体例を示した。
- ・学力調査を踏まえた授業改善のための説明会
（6月19日：小学校，21日：中学校 実施）
教諭等に向け，授業改善のための説明会を実施し，県として取り組むべき授業改善への具体例を示した。
- ・学力向上フォーラム2018（8月21日）
調査の分析結果を公表し，本県児童生徒の学力調査における結果と課題を共有する。
- ・山梨大学との連携
山梨大学と連携し，山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査結果について，専門的見地から助言を得，分析や各種資料に反映する。（本年度からの取組）

②やまなしスタンダードの推進

- ・「やまなしスタンダード ～授業づくりの7つの視点～」の基，県全体で授業改善の取組を進める。特に，「②話し合い，討論，発表などの言語活動を効果的に取り入れている」という視点を具現化するものとして，「年間を通じて意識したい授業改善の視点」という授業改善例を明示する。

③教育監，指導主事による学校訪問

- ・各学校が学力調査の結果を基にしたPDCAサイクルを確立する等の組織的な対応の進捗状況を把握する。授業観察や研究会での様子を踏まえ，適切な指導を行う。

④研究と研修の一体化

- ・本年度から，各種調査結果の分析を総合教育センターが中心となり，行っている。分析結果を研修等に反映させ，各学校の授業改善に向けた取組につなげる。

⑤「ピックアップ問題」の作成と配信

- ・山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査の結果を受け，課題のある学習内容についてのピックアップ問題を作成し，確実な学力の定着を目指す。

⑥各事業との連携した取組

- ・学びのサイクル改善事業における「単元末評価問題」への取組
- ・家庭学習習慣化促進事業における家庭学習の推進

平成30年度山梨県学力把握調査結果の分析 小学校第3学年・国語

調査結果概況

【表1】

対象児童数	平均正答数／設問数	平均正答率(%) 〔過去平均正答率(%)〕	中央値	標準偏差
6,221人	18.0／23	78.4 〔74.5〕	19	4.49

※「過去平均正答率」は、設問ごとの過去の正答率を平均した値である。

【表2】

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	76.3
	書くこと	3	80.9
	読むこと	3	69.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	14	80.3
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	2	86.1
	話す・聞く能力	3	76.3
	書く能力	3	80.9
	読む能力	3	69.2
	言語についての知識・理解・技能	14	80.3
問題形式	選択式	6	72.6
	短答式	15	79.7
	記述式	2	86.1

【成果(○)・課題(●)・対応策(⇒)】

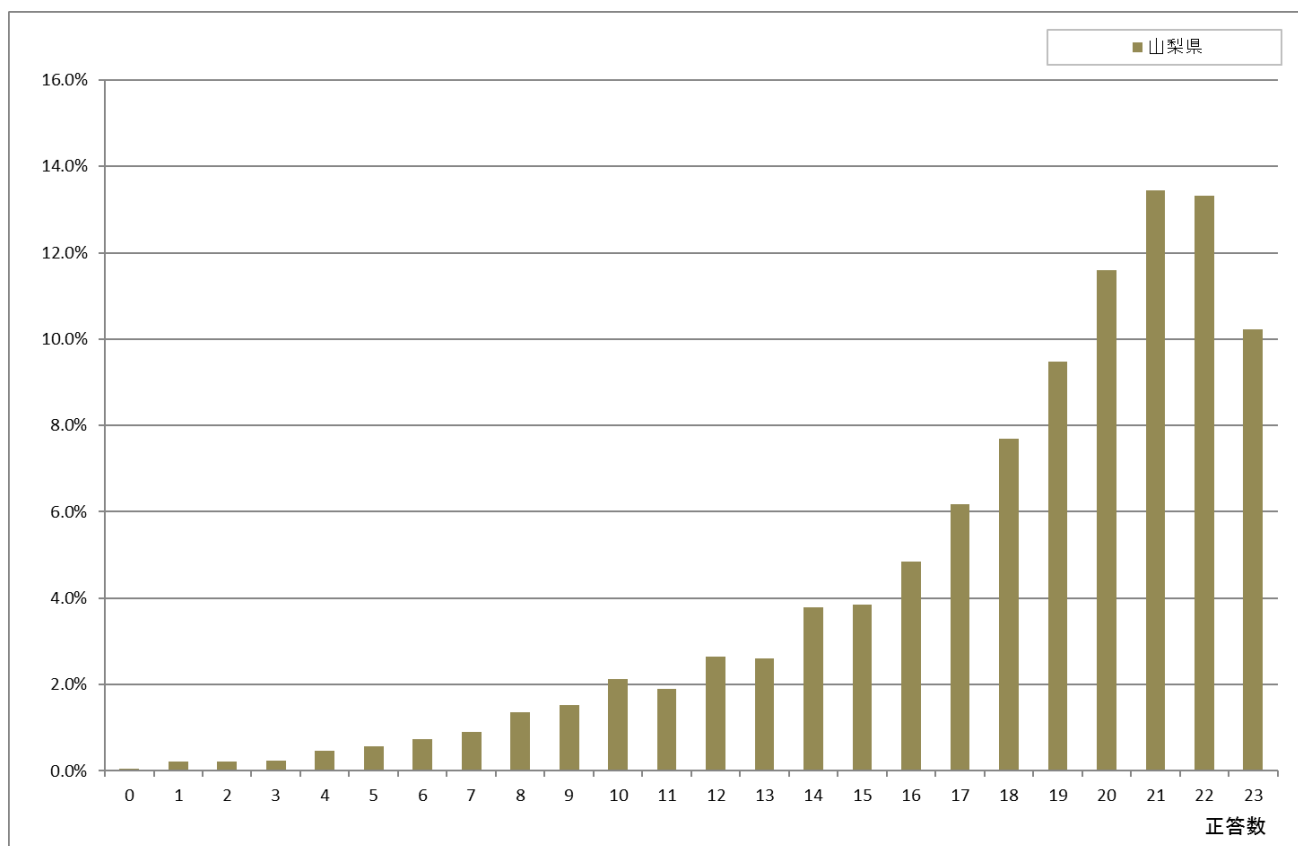
- ①「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における読点の打ち方〔4 62.8%〕については11.8ポイント上昇し、漢字を文脈の中で読むこと〔3 81.4%〕についても5.7ポイント上昇しており、改善の傾向が見られる。引き続き、文脈に沿って理解することを大切にしたい。
- ②「書くこと」の領域において、前後の言葉を手がかりに、文がどのように続くのかを想像して、続きの文を記述することについては、定着が見られる。〔11三 86.0%〕引き続き、接続語を意識し、文章を読んだり書いたりすることを大切にしたい。
- ①「読むこと」の領域において、自分の考えをまとめるために、文章に書かれている大事な文を書き抜くことに課題が見られる。〔12三 63.9%〕
⇒本問のように、単元の目標に基づき「植物のちえずかん」を書くために植物の知恵を見つける言語活動を位置付けるなどして、自らの課題意識に基づいて読む学習が必要である。
- ②「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、文中における主語と述語との関係を理解することに課題が見られる。〔5二 48.1%〕
⇒文の意味を明確に伝えるためには、主語と述語とが照応することが大切であるということについて、文章を読んだり表現したりする際に特に意識できるような指導が必要である。

【設問ごとの正答率・過去調査との比較】 ※差は、H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたもの

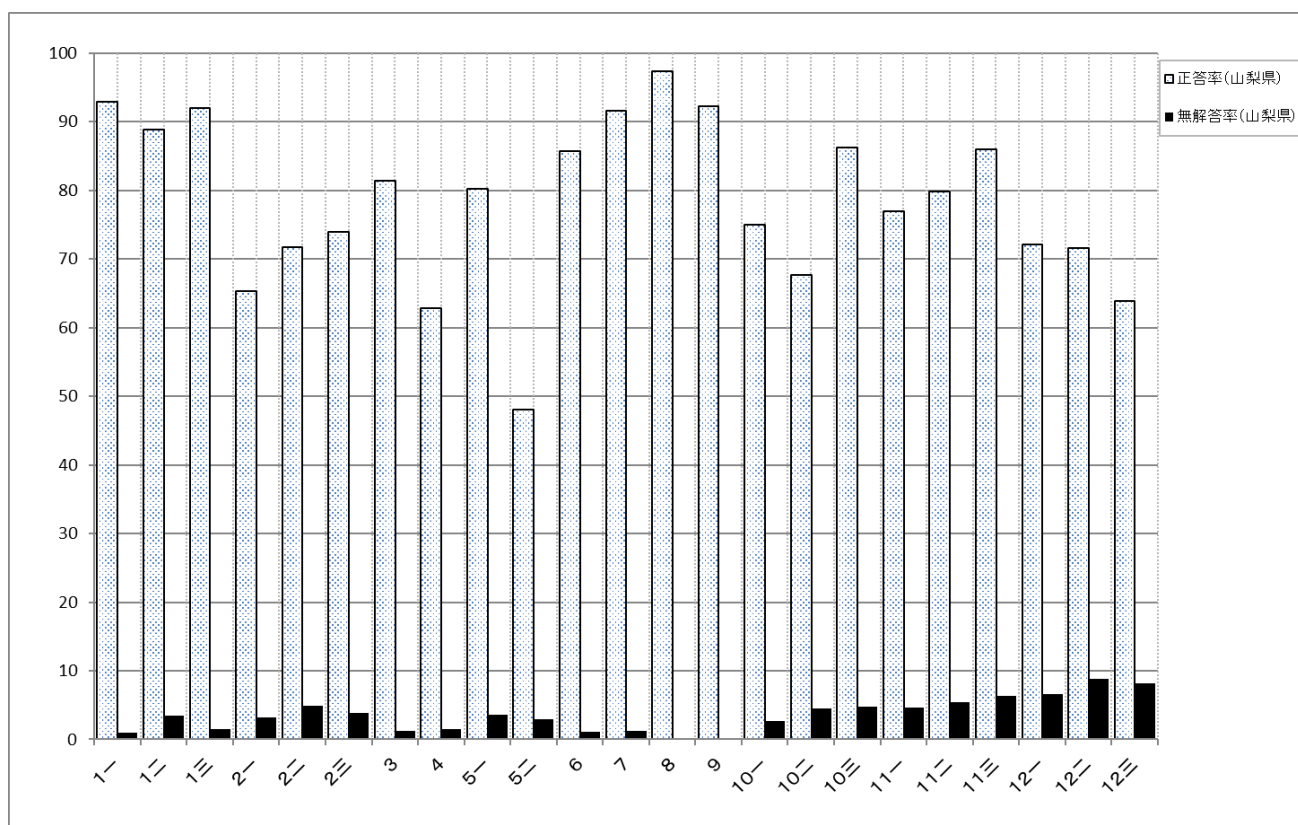
設問 番号	設問の概要	領 域 等	H30調査	過去調査		差 (ポイント)	成果 課題
			正答率 (%)	年度	正答率 (%)		
1一	漢字を読む(会社につとめる)	伝国	92.9	H26	94.5	-1.6	
1二	漢字を読む(計画を立てる)	伝国	88.8	H29	91.7	-2.9	
1三	漢字を読む(細い糸)	伝国	92.0	H24	95.0	-3.0	
2一	漢字を書く(えんそくに行く)	伝国	65.3	H29	59.7	5.6	
2二	漢字を書く(のはらで虫を見つける)	伝国	71.7	H28	75.8	-4.1	
2三	漢字を書く(林の中の道をあるく)	伝国	73.9	H28	77.6	-3.7	
3	漢字を読む (親子でキャンプに出かける。親切な人に会う。)	伝国	81.4	H29	75.7	5.7	①
4	「この店ではきものを買う。」の意味が「くつやサンダルを買う」ことになるように読点をつける	伝国	62.8	H29	51.0	11.8	①
5一	「それから、スイミーは、 <u>さげんだ</u> 。」の「 <u>さげんだ</u> 」の主語に線を引く	伝国	80.2	H25	76.8	3.4	
5二	「スーホがなでてやると、白馬は、体を <u>すりよせました</u> 。」の「 <u>すりよせました</u> 」の主語に線を引く	伝国	48.1	H25	52.2	-4.1	②
6	「わたしのしごと()、どうぶつたち()元気にさせるようにすることです。」の()に、「が」「は」のどちらか一つを入れて正しい文にする	伝国	85.7	H26	90.4	-4.7	
7	「とらんべつ」とを片仮名で書く	伝国	91.6	H24	91.1	0.5	
8	「たのしい」「つらい」「ひろい」と「くるしい」「おおきい」「おもしろい」とで、似た意味をもつ言葉を線で結ぶ	伝国	97.3	H26	97.9	-0.6	
9	「やさしい」「あたらしい」「明るい」と「くらい」「むずかしい」「古い」とで、反対の意味をもつ言葉を線で結ぶ	伝国	92.2	H25	90.4	1.8	
10一	【あきこさんの発表】(本の紹介)を聞いて、本の内容についてどのような感想を言えばよいか、適切なものを選ぶ	A	75.0	H27	75.3	-0.3	
10二	【あきこさんの発表】の中で、「わたしもいっぱい食べるので、この本に出てくる『あおむし』とにているなと思いました。」という文を入れるのに適切なところを選ぶ	A	67.7	H27	64.2	3.5	
10三	【あきこさんの発表】の中の「読んでね」という言葉を丁寧な言葉に直して書く	A	86.3	H27	87.7	-1.4	
11一	わかりやすく伝えるために、文章の「はじめ」には、何が書かれているか考える	B	77.0	H25	72.6	4.4	
11二	文章の「中」の文を、どんな工夫をして書いているか考える	B	79.8	H25	80.6	-0.8	
11三	途中で終わっている「おわり」の続きを考えて書く	B	86.0	H25	78.3	7.7	②
12一	オオオナモミの種を運んでいるのは何かを読み取る	C	72.1	H26	77.0	-4.9	
12二	オオオナモミの種が入っている実は何で覆われているかを読み取る	C	71.6	H26	77.2	-5.6	
12三	『草花のちえずかん』に載せるために、オオオナモミが種を運んでもらうためにしている二つの工夫を読み取る	C	63.9	H26	79.6	-15.7	①

<領域等> A : 話すこと・聞くこと B : 書くこと C : 読むこと 伝国 : 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【H30 調査正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	8	伝国	言語	短答	「たのしい」「つらい」「ひろい」と「くるしい」「おおきい」「おもしろい」とで、似た意味をもつ言葉を線で結ぶ	97.3
2	1一	伝国	言語	短答	漢字を読む(会社につとめる)	92.9
3	9	伝国	言語	短答	「やさしい」「あたらしい」「明るい」と「くらい」「むずかしい」「古い」とで、反対の意味をもつ言葉を線で結ぶ	92.2

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	5二	伝国	言語	短答	「スーホがなでてやると、白馬は、体をすりよせました。」の「すりよせました」の主語に線を引く	48.1
2	4	伝国	言語	短答	「この店ではきものを買う。」の意味が「くつやサンダルを買う」ことになるように読点をつける	62.8
3	12三	A	読む	選択	『草花のちえずかん』に載せるために、オオオナモミが種を運んでもらうためにしている二つの工夫を読み取る	63.9

【過去調査と比較した正答率の差 上位3題・下位3題】

※差は、H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたものである。設問ごと、過去調査における正答率と比較し、学習内容の定着状況を分析する一助とする。

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) (調査年度)	差 (ポイント)
1	4	伝国	言語	短答	「この店ではきものを買う。」の意味が「くつやサンダルを買う」ことになるように読点をつける	62.8	51.0 [H29]	11.8
2	11三	B	書く	記述	途中で終わっている「おわり」の続きを考えて書く	86.0	78.3 [H25]	7.7
3	3	伝国	言語	短答	漢字を読む(親子でキャンプに出かける。親切な人に会う。)	81.4	75.7 [H29]	5.7

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) (調査年度)	差 (ポイント)
1	12三	C	読む	選択	『草花のちえずかん』に載せるために、オオオナモミが種を運んでもらうためにしている二つの工夫を読み取る	63.9	79.6 [H26]	-15.7
2	12二	C	読む	短答	オオオナモミの種が入っている実は何で覆われているかを読み取る	71.6	77.2 [H26]	-5.6
3	12一	C	読む	選択	オオオナモミの種を運んでいるのは何かを読み取る	72.1	77.0 [H26]	-4.9

平成30年度山梨県学力把握調査結果の分析 小学校第3学年・算数

調査結果概況

【表1】

対象児童数	平均正答数／設問数	平均正答率 (%) 〔過去平均正答率 (%)〕	中央値	標準偏差
6,221人	12.0／16	75.0 〔67.1〕	13	3.04

※「過去平均正答率」は、設問ごとの過去の正答率を平均した値である。

【表2】

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と計算	8	77.8
	量と測定	4	67.9
	図形	3	71.9
	数量関係	4	64.6
評価の観点	数学的な考え方	3	61.5
	数量や図形についての技能	6	76.2
	数量や図形についての知識・理解	7	79.7
問題形式	選択式	4	72.9
	短答式	11	78.1
	記述式	1	49.1

【成果 (○)・課題 (●)・対応策 (⇒)】

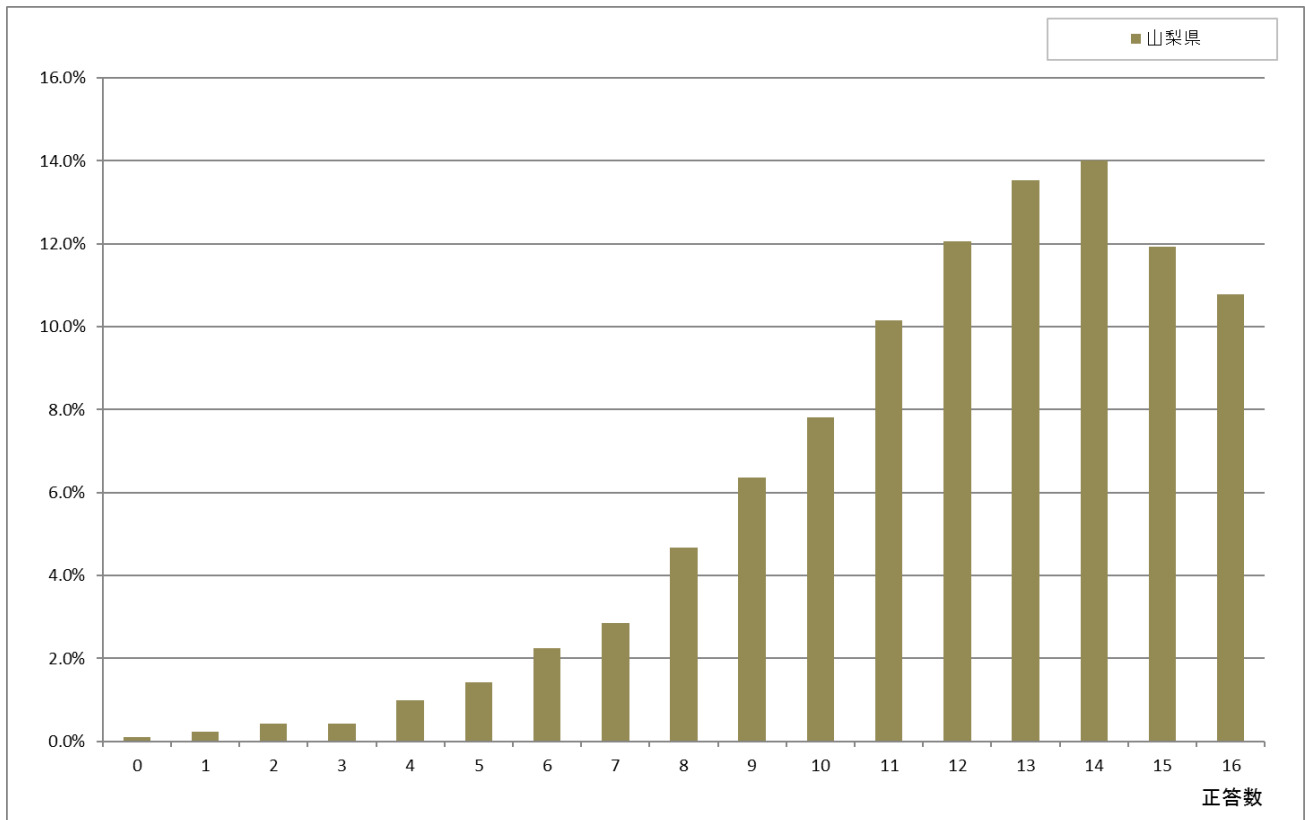
- ①「記述式」の問題形式において、示された式を基にして、説明の続きを書く設問の正答率が14.6ポイント上昇している。しかし、正答率が49.1%であり、16問中一番低い。引き続き、問題解決の方法を記述する取組が必要である。〔9 (2)〕
- ②平均正答率上位3題の設問において、繰り上がりのある加法計算をすること〔1 (1) 92.6%〕、乗法九九について理解すること〔2 (2) 92.2%〕、1Lますからかさを読むこと〔5 93.1%〕について、過去調査実施時と変わらず正答率が90%台を保持しており、定着が見られる。
- ①「数量関係」の領域において、2つの数量の関係を表した図を選ぶこと〔10 (1) 57.4%〕、場面を捉えて立式すること〔10 (2) 53.5%〕に課題が見られる。
⇒2つの数量の関係を図に表し、場面を捉えられるようにすることが大切である。その図を用いて演算決定したり、立式の根拠を説明したりすることも大切である。
- ②「図形」の領域において、図形の構成要素や性質についての理解に課題が見られる。〔7 (2) 63.0%、8 63.9%〕
⇒実際に箱や模様を作る活動を通して、図形の構成要素に気付いたり、図形に対する感覚を豊かにしたりすることが大切である。

【設問ごとの正答率・過去調査との比較】 ※差は、H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたもの

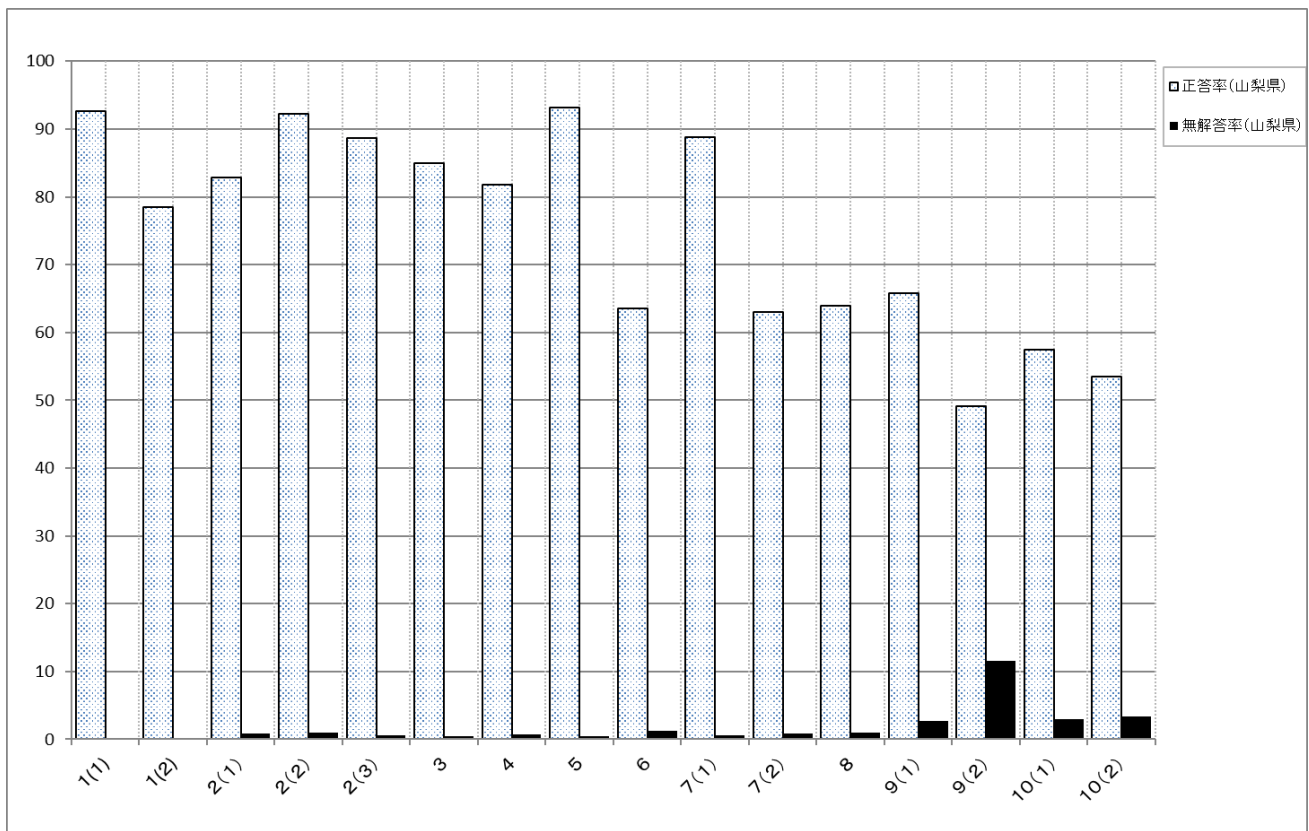
設問 番号	設問の概要	領 域	H30調査	過去調査		差 (ポイント)	成果 課題
			正答率 (%)	年度	正答率 (%)		
1(1)	$8 + 17$ を計算する	A	92.6	H24	92.2	0.4	②
1(2)	$110 - 74$ を計算する	A	78.5	H29	76.8	1.7	
2(1)	680は、10が何個集まった数かを書く	A	82.8	H28	82.2	0.6	
2(2)	答えが54になる九九の式を書く	A	92.2	H26	91.0	1.2	②
2(3)	$4\square7 > 467$ の□に入る数を選ぶ	A	88.6	H24	75.1	13.5	
3	数直線を読み取り、↑が示す値を書く	A	84.9	H26	76.8	8.1	
4	好きな果物調べのグラフを見て、正しい記述を選ぶ	D	81.8	H28	79.4	2.4	
5	1Lのますを読み取り、やかんに入る水のかさをL、dLを用いて答える	B	93.1	H24	92.1	1.0	②
6	示された時計の時刻を読み取り、その時刻から3時間後の時刻を求める	B	63.5	H28	61.5	2.0	
7(1)	直方体の3つの辺の長さが3cm、4cm、6cmのとき、指示された長さの辺の数を答える	C	88.8	H24	90.6	-1.8	
7(2)	直方体の3つの辺の長さが3cm、4cm、6cmのとき、指示された長方形の面の数を答える	C	63.0	H24	52.4	10.6	②
8	示された色板を6枚使ってできる図形を選ぶ	C	63.9	H27	64.2	-0.3	②
9(1)	水をためて顔を洗うと1日に14L節約できることを説明した式と説明を読み取り、説明に当てはまる数を書く	B D	65.8	H28	56.5	9.3	
9(2)	水を止めて歯みがきをすると1日に何Lの水を節約できるか、示された式を基にして、説明の続きを書く	A B	49.1	H28	34.5	14.6	①
10(1)	赤いテープの長さは30cmで、白いテープの長さより10cm短いとき、2つのテープの長さの関係を表している図を選ぶ	D	57.4	H25	56.8	0.6	①
10(2)	赤いテープの長さは30cmで、白いテープの長さより10cm短いとき、白いテープの長さを求める式を書き、答えを求める	A D	53.5	H25	55.0	-1.5	①

＜領域＞ A：数と計算 B：量と測定 C：図形 D：数量関係

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【H30 調査正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	5	量と測定	技能	短答	1 Lのますを読み取り、やかんに入る水のかさをL, dLを用いて答える	93.1
2	1(1)	数と計算	技能	短答	$8 + 17$ を計算する	92.6
3	2(2)	数と計算	知識・理解	短答	答えが54になる九九の式を書く	92.2

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	9(2)	数と計算 量と測定	考え方	記述	水を止めて歯みがきをすると1日に何Lの水を節約できるか、示された式を基にして、説明の続きを書く	49.1
2	10(2)	数と計算 数量関係	考え方	短答	赤いテープの長さは30cmで、白いテープの長さより10cm短いとき、白いテープの長さを求める式を書き、答えを求める	53.5
3	10(1)	数量関係	知識・理解	選択	赤いテープの長さは30cmで、白いテープの長さより10cm短いとき、2つのテープの長さの関係を表している図を選ぶ	57.4

【過去調査と比較した正答率の差 上位3題・下位3題】

※差は、H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたものである。設問ごと、過去調査における正答率と比較し、学習内容の定着状況を分析する一助とする。

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) 〔調査年度〕	差 (ポイント)
1	9(2)	数と計算 量と測定	考え方	記述	水を止めて歯みがきをすると1日に何Lの水を節約できるか、示された式を基にして、説明の続きを書く	49.1	34.5 〔H28〕	14.6
2	2(3)	数と計算	知識・理解	選択	$4 \square 7 > 4 6 7$ の \square に入る数を選ぶ	88.6	75.1 〔H24〕	13.5
3	7(2)	図形	知識・理解	短答	直方体の3つの辺の長さが3cm, 4cm, 6cmのとき、指示された長方形の面の数を答える	63.0	52.4 〔H24〕	10.6

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) 〔調査年度〕	差 (ポイント)
1	7(1)	図形	知識・理解	短答	直方体の3つの辺の長さが3cm, 4cm, 6cmのとき、指示された長さの辺の数を答える	88.8	90.6 〔H24〕	-1.8
2	10(2)	数と計算 数量関係	考え方	短答	赤いテープの長さは30cmで、白いテープの長さより10cm短いとき、白いテープの長さを求める式を書き、答えを求める	53.5	55.0 〔H25〕	-1.5
3	8	図形	技能	選択	示された色板を6枚使ってできる図形を選ぶ	63.9	64.2 〔H27〕	-0.3

平成30年度山梨県学力把握調査結果の分析 小学校第5学年・国語

調査結果概況

【表1】

対象児童数	平均正答数／設問数	平均正答率(%) 〔過去平均正答率(%)〕	中央値	標準偏差
6,502人	15.4／23	66.9 〔64.0〕	16	4.16

※「過去平均正答率」は、設問ごとの過去の正答率を平均した値である。

【表2】

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	52.3
	書くこと	3	72.8
	読むこと	3	58.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	14	70.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	48.2
	話す・聞く能力	3	52.3
	書く能力	3	72.8
	読む能力	3	58.5
	言語についての知識・理解・技能	14	70.6
問題形式	選択式	13	63.8
	短答式	7	80.6
	記述式	3	48.2

【成果(○)・課題(●)・対応策(⇒)】

- ①「話すこと・聞くこと」の領域において、話し合いにおける「司会」の果たす役割を理解していること〔10二 50.5%〕については5.7ポイント上昇しており、改善の傾向が見られる。引き続き、役割を意識した話し合いを継続して取り組みたい。
- ②「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における、文の中から主語を選択すること〔4 57.5%〕については5.4ポイント上昇しており、改善の傾向が見られる。引き続き、主語と述語を意識して読んだり書いたりできるようにする。
- ❶「話すこと・聞くこと」の領域において、話し合いの大事な点に注目して意見を聞くことに課題が見られる。〔10三 19.3%〕
⇒児童が話し合いの目的を常に意識しながら学習できるように、提案者が目的を明確にして発表したり、その目的を全員が理解できたか司会が確認したりする指導が必要である。
- ❷「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、故事成語の使い方としてふさわしいものを選択することに課題が見られる。〔9一 33.6%〕
⇒長い間使われてきた故事成語や慣用句等に興味をもち、その意味を調べてカードに記録したり、実生活の中で意図的に活用する機会を設けたりするなど、語彙を豊かにする学習を積み重ねることが大切である。

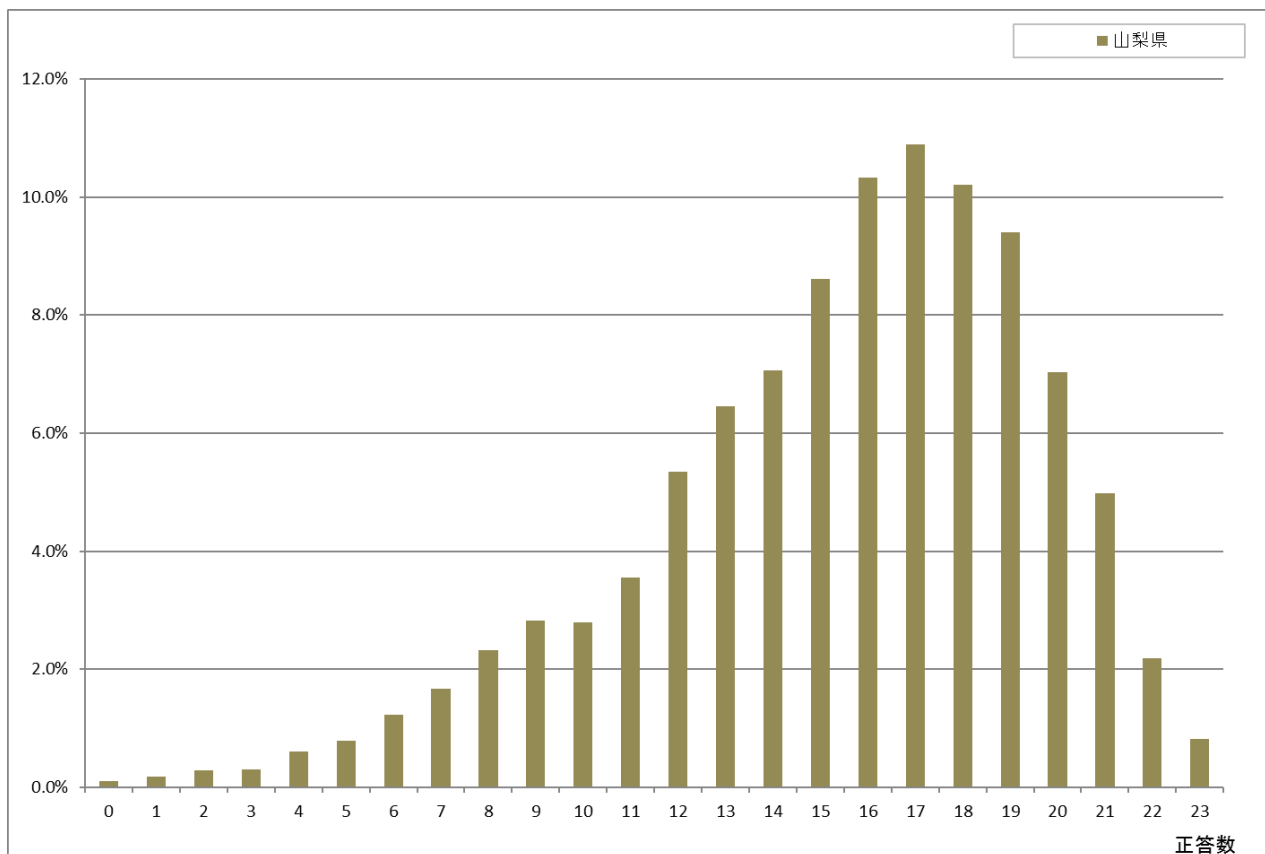
【設問ごとの正答率・過去調査との比較】 ※差は、H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたもの

設問 番号	設問の概要	領域 等	H30調査	過去調査		差 (ポイント)	成果 課題	
			正答率 (%)	*県 把握	*全国			正答率 (%)
1一	漢字を読む(街灯がつく)	伝国	80.8		H26	84.5	-3.7	
1二	漢字を読む(文字を写す)	伝国	92.3	H26		89.2	3.1	
1三	漢字を読む(むだを省くようにする)	伝国	78.6		H28	77.7	0.9	
2一	漢字を書く(先生に <u>そうだん</u> する)	伝国	58.9		H28	56.4	2.5	
2二	漢字を書く(シャワーを <u>あ</u> びる)	伝国	83.6		H27	55.3	28.3	
2三	漢字を書く(落とし物を <u>ひ</u> ろう)	伝国	74.5	H25		75.4	-0.9	
3	文脈に即したいろいろな意味をもつ言葉を書く	伝国	95.8	H24		97.7	-1.9	
4	文の中から主語を選択する	伝国	57.5		H27	52.1	5.4	②
5	「船が、ゆっくりと 大きな 港に 近づく。」の「ゆっくりと」という言葉が係っている言葉として適切なものを選ぶ	伝国	34.7	H28		29.8	4.9	
6	「ありはおしりのところから、とくべつのえきを出すことが分かりました。それは、においのある、じょうはつしやすいえきです。」の「それ」が指し示す言葉として適切なものを選ぶ	伝国	82.3	H28		78.3	4.0	
7	適切な慣用句を選択する	伝国	84.8	H24		84.8	0.0	
8	「漢字辞典の使い方」で、「回転」という言葉に使われている「回」の意味として適切なものを選ぶ	伝国	91.4	H28		91.8	-0.4	
9一	故事成語の使い方としてふさわしいものを選択する(五十歩百歩)	伝国	33.6		H26	44.2	-10.6	②
9二	故事成語の使い方としてふさわしいものを選択する(百聞は一見にしかず)	伝国	39.7		H26	44.4	-4.7	
10一	話し合いにおいて、だれがどのような立場で発言しているか、適切なものを選ぶ	A	87.0	H27		86.8	0.2	
10二	話し合いにおいて、司会の役割として適切なものを選ぶ	A	50.5	H27		44.8	5.7	①
10三	話し合いの発言の内容から、スポーツ大会の目的に合わない点をとらえて書く	A	19.3	H27		22.7	-3.4	①
11一	「あります」という言葉を、人から聞いた場合において丁寧な表現を使って書く	B	74.0	H28		71.5	2.5	
11二	内容に合ったグラフとして適切なものを選ぶ	B	78.4	H28		74.2	4.2	
11三	タイトルに入る言葉として適切なものを選ぶ	B	66.0	H28		68.0	-2.0	
12一	【ウミガメの保護監視員のことが書かれた文章】から「保護監視員の朝の仕事」を読み取る	C	65.5	H26		67.6	-2.1	
12二	【ウミガメの保護監視員のことが書かれた文章】から「夜パトロールする必要がある理由」を読み取る	C	51.4	H26		59.6	-8.2	
12三	「ウミガメの保護監視員になるには」ということを発表するためには、どんな本や資料が必要か考える	C	58.6	H26		58.5	0.1	

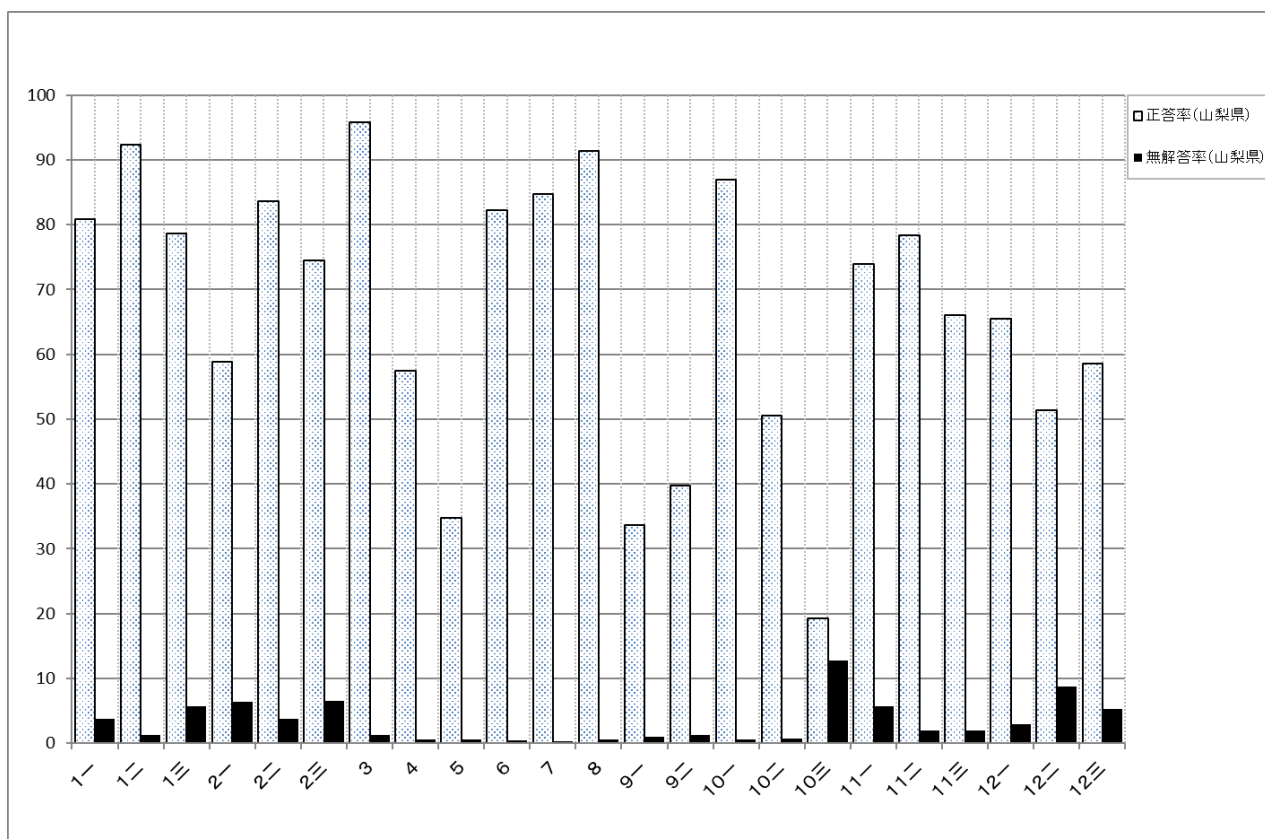
<領域等> A：話すこと・聞くこと B：書くこと C：読むこと 伝国：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

*県把握：山梨県把握調査を基に作成した設問 *全国：全国学力・学習状況調査を基に作成した設問

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【H30 調査正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	3	伝国	言語	短答	文脈に即したいろいろな意味をもつ言葉を書く	95.8
2	1二	伝国	言語	短答	漢字を読む (文字を写す)	92.3
3	8	伝国	言語	選択	「漢字辞典の使い方」で、「回転」という言葉に使われている「回」の意味として適切なものを選ぶ	91.4

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	10三	A	話聞	記述	話し合いの発言の内容から、スポーツ大会の目的に合わない点をとらえて書く	19.3
2	9一	伝国	言語	選択	故事成語の使い方としてふさわしいものを選択する (五十歩百歩)	33.6
3	5	伝国	言語	選択	「船が、ゆっくりと 大きな 港に 近づく。」の「ゆっくりと」という言葉が係っている言葉として適切なものを選ぶ	34.7

【過去調査と比較した正答率の差 上位3題・下位3題】

※差は、H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたものである。設問ごと、過去調査における正答率と比較し、学習内容の定着状況を分析する一助とする。

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) [調査年度]	差 (ポイント)
1	2二	伝国	言語	短答	漢字を書く (シャワーを <u>あ</u> びる)	83.6	55.3 [H27]	28.3
2	10二	A	話聞	選択	話し合いにおいて、司会の役割として適切なものを選ぶ	50.5	44.8 [H27]	5.7
3	4	伝国	言語	選択	文の中から主語を選択する	57.5	52.1 [H27]	5.4

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) [調査年度]	差 (ポイント)
1	9一	伝国	言語	選択	故事成語の使い方としてふさわしいものを選択する (五十歩百歩)	33.6	44.2 [H26]	-10.6
2	12二	C	読む	記述	【ウミガメの保護監視員のことが書かれた文章】から「夜パトロールする必要がある理由」を読み取る	51.4	59.6 [H26]	-8.2
3	9二	伝国	言語	選択	故事成語の使い方としてふさわしいものを選択する (百聞は一見にしかず)	39.7	44.4 [H26]	-4.7

平成30年度山梨県学力把握調査結果の分析 小学校第5学年・算数

調査結果概況

【表1】

対象児童数	平均正答数／設問数	平均正答率 (%) [過去平均正答率 (%)]	中央値	標準偏差
6,502人	11.7 / 16	73.0 [72.9]	12	3.15

※「過去平均正答率」は、設問ごとの過去の正答率を平均した値である。

【表2】

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と計算	5	67.5
	量と測定	2	84.2
	図形	2	59.0
	数量関係	8	74.5
評価の観点	数学的な考え方	2	55.5
	数量や図形についての技能	11	76.2
	数量や図形についての知識・理解	3	73.0
問題形式	選択式	5	67.4
	短答式	10	78.0
	記述式	1	51.2

【成果 (○)・課題 (●)・対応策 (⇒)】

- ①「数と計算」の領域の加法と乗法の混合計算をすること〔1(3)80.1%〕において、正答率が18.1ポイント上昇している。引き続き、具体的な場面と式表現を結び付けて理解できるようにすることが大切である。
- ②正答率上位3題の設問において、角のおよその大きさについて直角を基に捉えること〔4(1)91.3%〕、2つの数量の関係を捉え表に当てはまる数を求めること〔6(1)96.8%〕、折れ線グラフを読むこと〔7(1)95.4%〕について、過去調査実施時と変わらず正答率が90%台を保持しており、定着が見られる。
- ①「図形」の領域において、基本図形の性質の理解に課題が見られる。〔5 50.4%〕
⇒基本図形を仲間分けする際、辺の長さや辺と辺の関係、対角線の長さや交わり方などに着目することが今まで以上に必要である。
- ②「記述式」の問題形式において、示されたきまりを基に、計算方法を式や言葉を用いて説明することに課題が見られる。〔9 51.2%〕
⇒示されたきまりを読み取り、異なる数値の場合でも当てはまるか話し合う活動が考えられる。その際、式と言葉を関連付けて説明することが大切である。

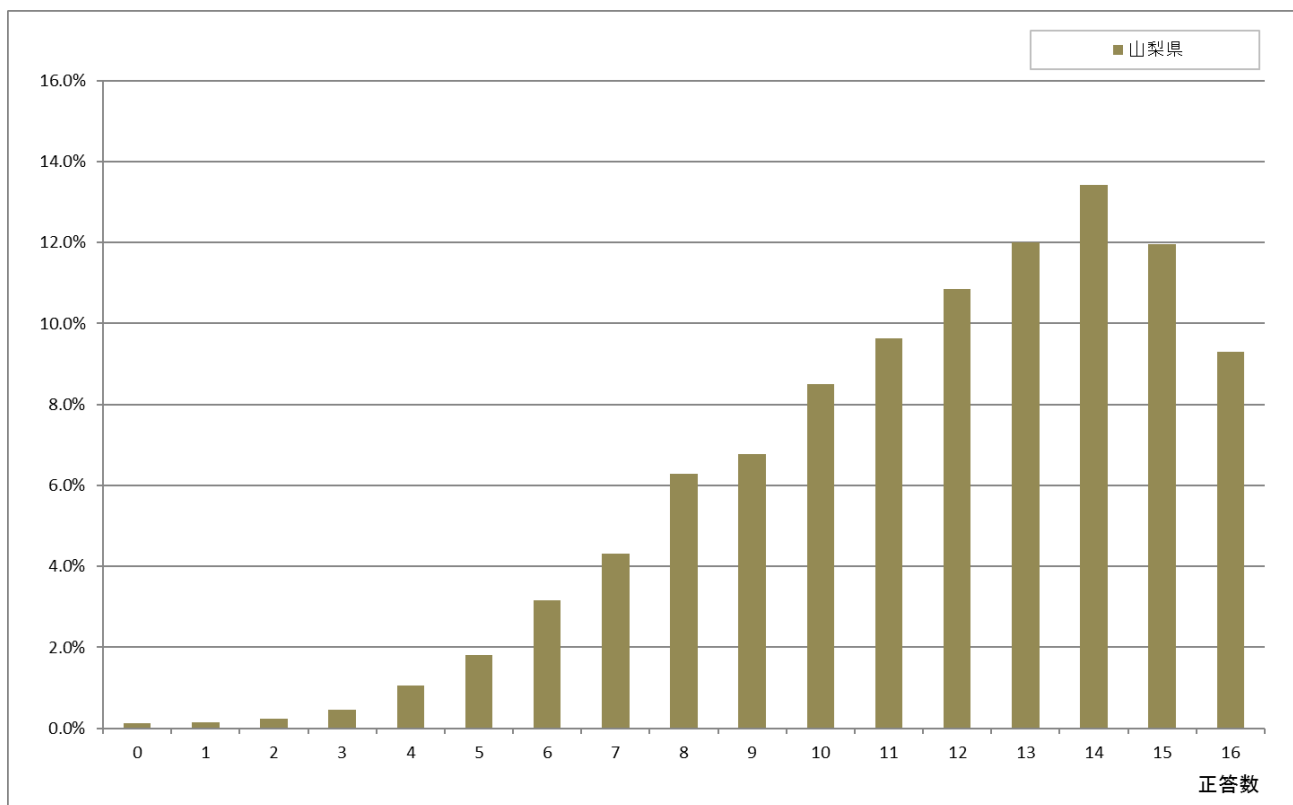
【設問ごとの正答率・過去調査との比較】 ※差は、H30調査正答率から過去調査正答率を引いたもの

設問 番号	設問の概要	領域	H30調査	過去調査		差 (ポイント)	成果 課題	
			正答率 (%)	*県 把握	*全国			正答率 (%)
1(1)	2. 8×7 を計算する	A	86.9	H24		77.6	9.3	
1(2)	$1 - \frac{4}{5}$ を計算する	A	88.0	H26		86.2	1.8	
1(3)	$3 + 6 \times 2$ を計算する	D	80.1	H25		62.0	18.1	①
2	数直線を読み取り、目盛りが表す数を書く	A	58.4	H25		52.9	5.5	
3	36mは20mの何倍かを求める式と答えを書く	A	52.8	H24		47.6	5.2	
4(1)	90° , 180° , 270° , 360° を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	B	91.3	H28		88.1	3.2	②
4(2)	分度器の目盛りを読み、 90° より大きい角の大きさを求める	B	77.1	H28		74.2	2.9	
5	四角形の特徴をまとめた表を読み取り、当てはまる図形を選ぶ	C	50.4	H25		43.8	6.6	①
6(1)	1辺1cmの正方形を1段、2段、・・・と階段状に並べたとき、段の数とまわりの長さの関係を表す表を読み取り、4段並べたときのまわりの長さを求める	D	96.8	H28		95.0	1.8	②
6(2)	1辺1cmの正方形を1段、2段、・・・と階段状に並べたとき、段の数を□段、まわりの長さを○cmとしたときの、□と○の関係を正しく表している式を選ぶ	D	73.8	H28		67.0	6.8	
7(1)	折れ線グラフを読み、気温がいちばん高かった月とその月の気温を書く	D	95.4	H23		95.0	0.4	②
7(2)	折れ線グラフを読み、気温の上がり方がいちばん大きい月と月の間を書く	D	77.2	H23		69.9	7.3	
8	半径4cmの三分の長さを求める	C	67.6	H27		64.4	3.2	
9	二人の説明をもとに、 37×24 の積が888になることを書く	A D	51.2		H26	55.1	-3.9	②
10(1)	図から、どんぐりの数と人の数の間の関係を読み取り、28個の7人分を求める問題を選ぶ	D	59.8	H27		54.2	5.6	
10(2)	図から、どんぐりの数と人の数の間の関係を読み取り、28個の7人分を求める式を選ぶ	D	61.7	H27		58.5	3.2	

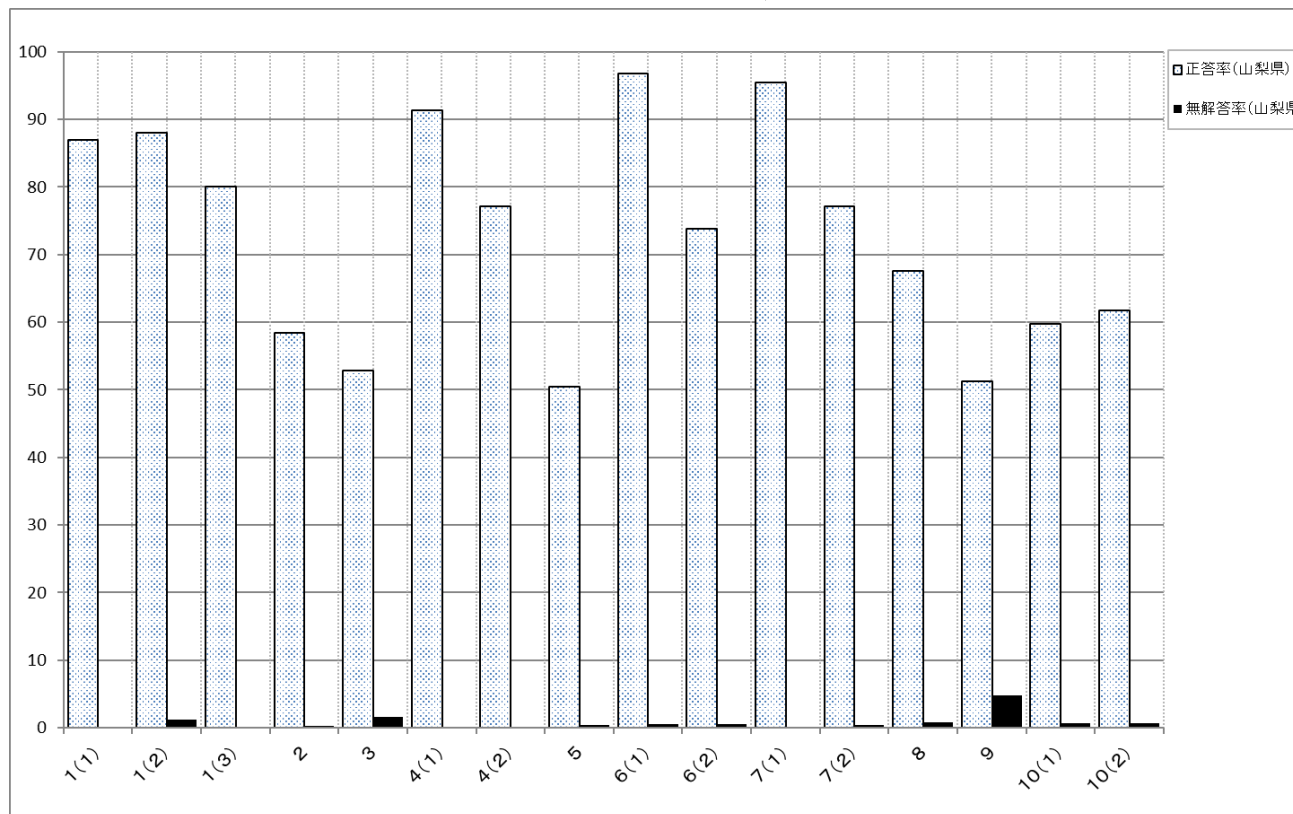
<領域> A : 数と計算 B : 量と測定 C : 図形 D : 数量関係

*県把握 : 山梨県把握調査を基に作成した設問 *全国 : 全国学力・学習状況調査を基に作成した設問

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【H30 調査正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	6(1)	数量関係	技能	短答	1辺1cmの正方形を1段, 2段, …と階段状に並べたとき, 段の数とまわりの長さの関係を表す表を読み取り, 4段並べたときのまわりの長さを求める	96.8
2	7(1)	数量関係	技能	短答	折れ線グラフを読み, 気温がいちばん高かった月とその月の気温を書く	95.4
3	4(1)	量と測定	知識・理解	選択	90° , 180° , 270° , 360° を基準として角の大きさを見当付けたものから, 正しいものを選ぶ	91.3

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	5	図形	知識・理解	選択	四角形の特徴をまとめた表を読み取り, 当てはまる図形を選ぶ	50.4
2	9	数と計算 数量関係	考え方	記述	二人の説明をもとに, 37×24 の積が888になることを書く	51.2
3	3	数と計算	技能	短答	36mは20mの何倍かを求める式と答えを書く	52.8

【過去調査と比較した正答率の差 上位3題・下位3題】

※差は, H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたものである。設問ごと, 過去調査における正答率と比較し, 学習内容の定着状況を分析する一助とする。

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) [調査年度]	差 (ポイント)
1	1(3)	数量関係	技能	短答	$3 + 6 \times 2$ を計算する	80.1	62.0 [H25]	18.1
2	1(1)	数と計算	技能	短答	2.8×7 を計算する	86.9	77.6 [H24]	9.3
3	7(2)	数量関係	知識・理解	短答	折れ線グラフを読み, 気温の上がり方がいちばん大きい月と月の間を書く	77.2	69.9 [H23]	7.3

下位

※差がマイナスの設問のみ。小学校第5学年においては, 差がマイナスの設問は一題であった。

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) [調査年度]	差 (ポイント)
1	9	数と計算 数量関係	考え方	記述	二人の説明をもとに, 37×24 の積が888になることを書く	51.2	55.1 [H26]	-3.9

平成30年度山梨県学力把握調査結果の分析 中学校第2学年・国語

調査結果概況

【表1】

対象生徒数	平均正答数／設問数	平均正答率(%) [過去平均正答率(%)]	中央値	標準偏差
6,520人	13.0／21	61.8 [65.5]	13	4.27

※「過去平均正答率」は設問ごとの過去の正答率を平均した値である。

【表2】

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	71.3
	書くこと	4	49.7
	読むこと	3	59.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	62.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	2	58.2
	話す・聞く能力	3	71.3
	書く能力	4	49.7
	読む能力	3	59.5
	言語についての知識・理解・技能	12	62.7
問題形式	選択式	8	62.8
	短答式	11	61.7
	記述式	2	58.2

【成果(○)・課題(●)・対応策(⇒)】

- ①「話すこと・聞くこと」の領域において、「話し合いの司会者として、それまでの経緯をまとめ、原案に賛成、反対、それぞれの立場での意見を端的にまとめる」設問の正答率が46.7ポイント上昇し、改善の傾向が見られる。引き続き、多くの生徒に司会を経験させて、話題や展開を捉える取組を継続していきたい。〔2三 70.5%〕
- ②「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、漢字を訓読みする設問の正答率が上昇している。引き続き、読める漢字を増やし、書いたり使ったりすることへつなげることを継続していきたい。〔1二1 83.1%, 1二2 79.9%〕
- ①「記述式」の問題形式において、正答率が低く、課題が見られる。〔3三 40.9%, 4三 45.8%〕
⇒複数の資料を用いて、必要な情報を見付け出し記述する場面を設ける必要がある。その際、資料の内容理解に加え、根拠を問い直す活動が大切である。無解答率も高いため、記述前に、書こうとする内容が適切であることを相互に確かめ合い自信を持たせることが、今まで以上に必要である。
- ②「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、文脈に即した語句の選択に課題が見られる。〔1三ア 47.6%, 1三イ 52.5%, 1三ウ 52.9%〕
⇒生徒同士の日常会話で頻繁に使用されない慣用句等については、生徒が目にしたたり耳にしたたりする機会を増やす必要がある。読書活動の充実や新聞の活用、調べた慣用句の掲示、教師による意図的な使用を経て、生徒に適切に使用させることが大切である。

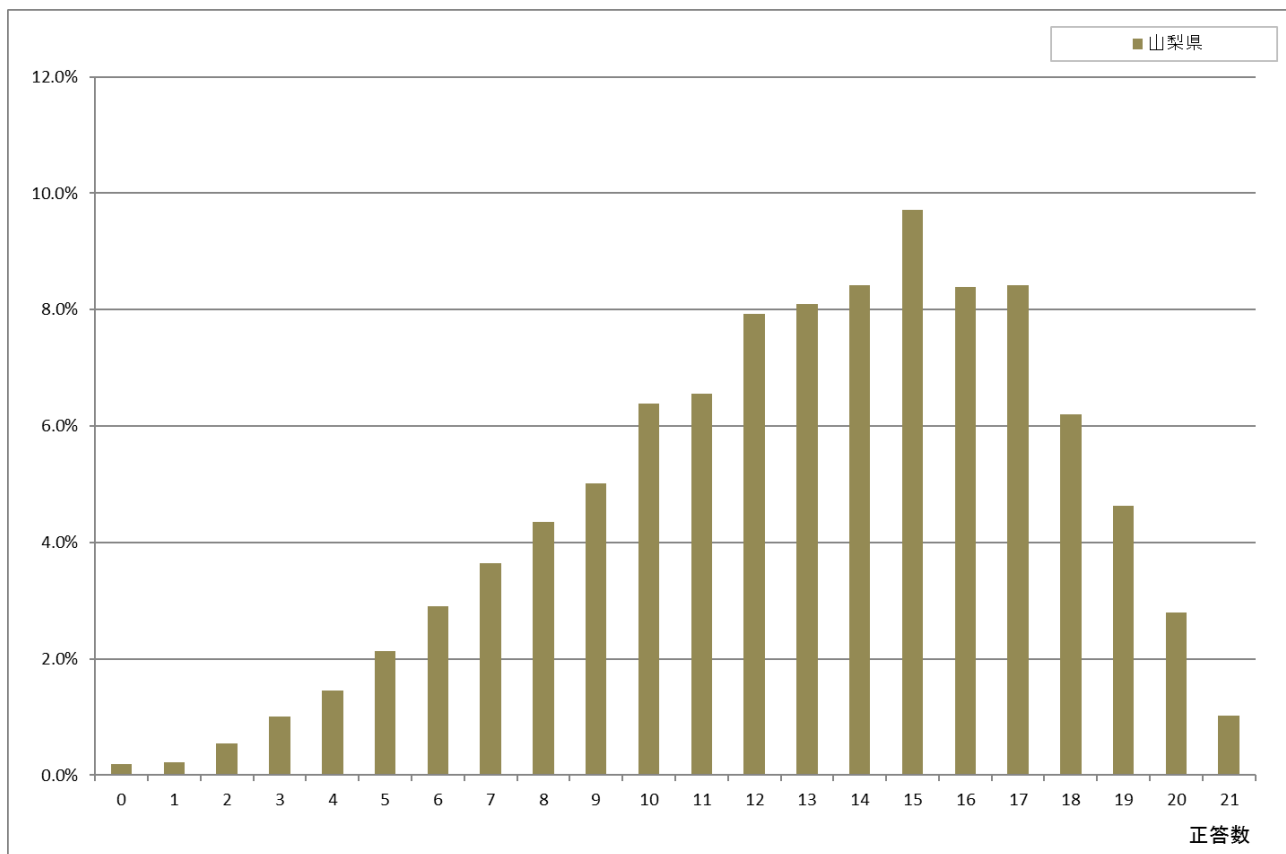
【設問ごとの正答率・過去調査との比較】 ※差は、H30調査正答率から過去調査正答率を引いたもの

設問 番号	設問の概要	領域 等	H30調査	過去調査			差 (ポイント)	成果 課題
			正答率 (%)	*県 把握	*全国	正答率 (%)		
1-1	漢字を書く（あまったお金を貯金する）	伝国	75.0		H27	66.3	8.3	
1-2	漢字を書く（燃料をおぎなう）	伝国	45.9		H21	52.9	-7.0	
1-3	漢字を書く（期待がはずれて、おもしろみがは んげんした）	伝国	57.5		H19	65.4	-7.9	
1二1	漢字を読む（目上の人を敬う）	伝国	83.1		H28	78.3	4.8	②
1二2	漢字を読む（会議で決を採る）	伝国	79.9		H24	75.3	4.6	②
1二3	漢字を読む（アユの稚魚を放流する）	伝国	68.9		H26	76.6	-7.7	
1三ア	適切な語句を選択する（彼がこの討論の口火を 切った）	伝国	47.6		H27	54.8	-7.2	②
1三イ	適切な語句を選択する（弟子を手塩にかけて育 てる）	伝国	52.5		H24	62.8	-10.3	②
1三ウ	適切な語句を選択する（友達に将来の抱負を話 す）	伝国	52.9		H25	66.3	-13.4	②
1四1	「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文 中から抜き出す	伝国	44.2		H25	53.2	-9.0	
1四2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（にほ ふ）	伝国	81.9		H25	82.8	-0.9	
1五	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適 切なものを選択する	伝国	63.2		H29	66.8	-3.6	
2一	話合いの中で、他の人の発言がどのようなもの かを捉える	A	63.8	H24		64.5	-0.7	
2二	話合いにおいて、相手に分かるように発言する	A	79.6	H24		77.7	1.9	
2三	話合いの司会者として、それまでの経緯をまと め、原案に賛成、反対、それぞれの立場での意 見を端的にまとめる	A	70.5	H24		23.8	46.7	①
3一	レポートの内容に適した図表を選択する	B	77.5	H27		75.7	1.8	
3二	見出しにふさわしい言葉を文章中から書き抜 く	B	34.5	H27		32.6	1.9	
3三	助言をもとに、根拠を明確にして書く	B	40.9	H27		37.4	3.5	①
4一	物語の展開に沿って巳之助の様子を並べ替え る	C	67.1		H28	71.3	-4.2	
4二	物語に書かれている事柄について図鑑の説明 から分かることとして適切なものを選択する	C	65.4		H28	65.2	0.2	
4三	図鑑の説明を読むことで、よく分かるよにな った物語の部分と、その部分についてどのよう なことが分かったのかを書く	C	45.8		H28	57.2	-11.4	①

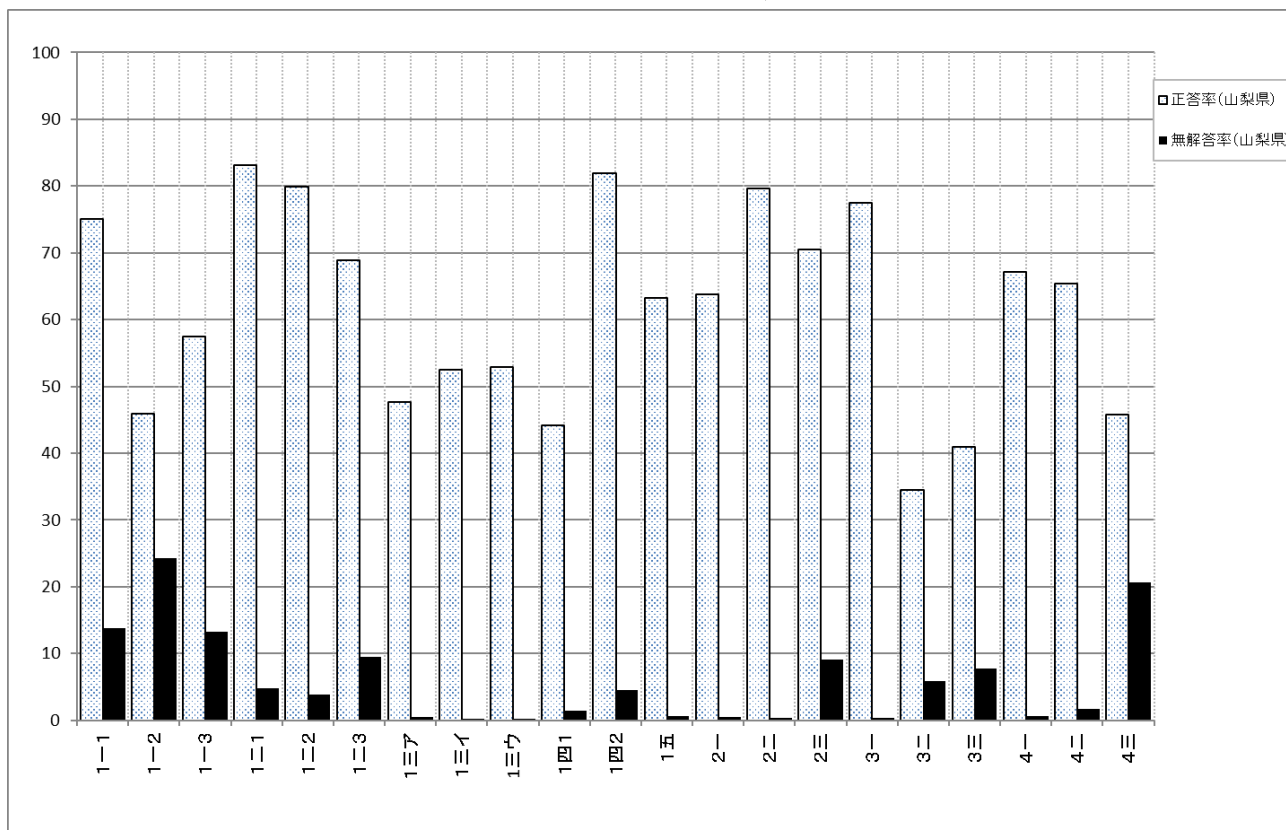
<領域等> A：話すこと・聞くこと B：書くこと C：読むこと 伝国：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

*県把握：山梨県把握調査を基に作成した設問 *全国：全国学力・学習状況調査を基に作成した設問

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【H30 調査正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	1二1	伝国	言語	短答	漢字を読む (目上の人を <u>敬</u> う)	83.1
2	1四2	伝国	言語	短答	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (に <u>ほ</u> ふ)	81.9
3	1二2	伝国	言語	短答	漢字を読む (会議で決を <u>採</u> る)	79.9

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	3二	B	書く	短答	見出しにふさわしい言葉を文章中から書き抜く	34.5
2	3三	B	書く	短答	助言をもとに、根拠を明確にして書く	40.9
3	1四1	伝国	言語	短答	「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す	44.2

【過去調査と比較した正答率の差 上位3題・下位3題】

※差は、H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたものである。設問ごと、過去調査における正答率と比較し、学習内容の定着状況を分析する一助とする。

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) 〔調査年度〕	差 (ポイント)
1	2三	A	話す・聞く	記述	話合いの司会者として、それまでの経緯をまとめ、原案に賛成、反対、それぞれの立場での意見を端的にまとめる	70.5	23.8 〔H24〕	46.7
2	1一1	伝国	言語	短答	漢字を書く (<u>あ</u> まったお金を貯金する)	75.0	66.3 〔H27〕	8.3
3	1二1	伝国	言語	短答	漢字を読む (目上の人を <u>敬</u> う)	83.1	78.3 〔H28〕	4.8

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域等	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) 〔調査年度〕	差 (ポイント)
1	1三ウ	伝国	言語	選択	適切な語句を選択する (友達に将来の <u>抱</u> 負を話す)	52.9	66.3 〔H25〕	-13.4
2	4三	C	読む	記述	図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く	45.8	57.2 〔H28〕	-11.4
3	1三イ	伝国	言語	選択	適切な語句を選択する (弟子を手塩に <u>か</u> けて育てる)	52.5	62.8 〔H24〕	-10.3

平成30年度山梨県学力把握調査結果の分析 中学校第2学年・数学

調査結果概況

【表1】

対象生徒数	平均正答数／設問数	平均正答率 (%) [過去平均正答率 (%)]	中央値	標準偏差
6,518人	12.0／20	59.9 [50.1]	12	4.70

※「過去平均正答率」は、設問ごとの過去の正答率を平均した値である。

【表2】

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と式	7	54.7
	図形	6	70.7
	関数	4	60.8
	資料の活用	3	49.0
評価の観点	数学的な見方や考え方	7	61.2
	数学的な技能	6	54.3
	数量や図形についての知識・理解	7	63.3
問題形式	選択式	7	58.2
	短答式	10	61.0
	記述式	3	60.0

【成果 (○)・課題 (●)・対応策 (⇒)】

- ①「記述式」の問題形式において、全ての設問で正答率が上昇しており、改善の傾向が見られる。記述について、「事柄・事実の説明」「方法・手順の説明」「理由の説明」を観点に、継続して取り組むことが大切である。
- ・事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明する [4 (3) 23.9ポイント上昇]
 - ・問題解決の方法を数学的に説明する (6 (2) 21.8ポイント上昇)
 - ・事柄の特徴を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明する [5 (2) 20.4ポイント上昇]
- ②「図形」の領域において、空間における直線の位置関係を理解すること [2 (1) 85.3%] や線対称な図形の性質として正しいものを選ぶこと [5 (1) 89.9%] については正答率が高く、図形に関する基本的な学習内容が身に付いている。図形の性質について、実感を伴って理解できるよう、継続した取組が必要である。
- ①「数と式」の領域において、数量の関係を文字式で表すことについて課題が見られる。 [1 (4) 18.0%]
- ⇒問題の意味を読み取り、その意味に基づいて適切に関係を表すことができるように指導することが引き続き大切である。授業を行う際、文字式の表し方の基本的なルールを確認すると共に、図に表し、誤りのある計算や考え方を基に正しい計算の仕方を確認し、立式する活動を取り入れることが考えられる。
- ②「数と式」の領域において、基本的な計算の技能について課題が見られる。 [1 (1) 3.9ポイント下降, 1 (2) 12.3ポイント下降, 1 (3) 18.2ポイント下降]
- ⇒計算の結果を振り返り、確かめることにより、文字式の計算が確実に定着するように指導することが引き続き大切である。その際、計算だけで終わらずに、計算結果に数を代入して解答と一致しているかチェックするなど、生徒が自分の結果を振り返る活動を取り入れることが考えられる。

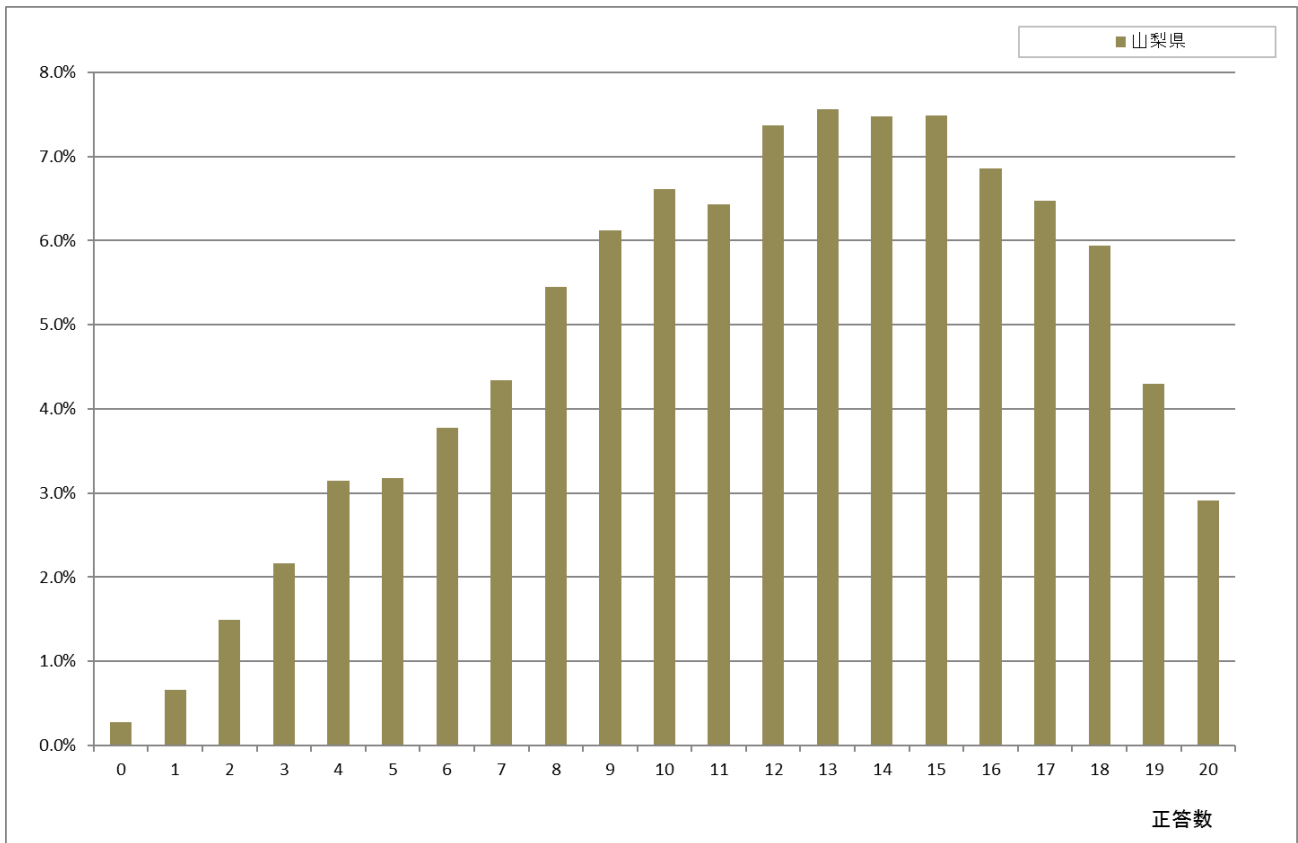
【設問ごとの正答率・過去調査との比較】※差は、H30調査正答率から過去調査正答率を引いたもの

設問 番号	設問の概要	領域	H30調査	過去調査			差 (ポイント)	成果 課題
			正答率 (%)	*県 把握	*全国	正答率 (%)		
1(1)	6 - (-7) を計算する	A	82.8		H24	86.7	-3.9	②
1(2)	a=-6 のとき、-2a の値を求める	A	68.0	H26		80.3	-12.3	②
1(3)	(4a-6) - 2(a-3) を計算する	A	62.8		H20	81.0	-18.2	②
1(4)	赤いテープの長さが a cm で、白いテープの長さの3/5倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す	A	18.0		H27	19.1	-1.1	①
2(1)	ねじれの位置にある辺を選ぶ	B	85.3	H23		82.1	3.2	②
2(2)	垂直な面を選ぶ	B	72.9	H23		70.0	2.9	
3	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	B	49.5		H26	32.9	16.6	
4(1)	1辺に5個ずつ基石を並べて正三角形の形をつくったときの、基石全部の個数を求める	A	52.5		H25	40.9	11.6	
4(2)	基石全部の個数を求める式 3(n-1) に対応する囲み方を選ぶ	A	56.0		H25	48.6	7.4	
4(3)	基石全部の個数を、3(n-2)+3 という式で求めることができる理由を説明する	A	42.5		H25	18.6	23.9	①
5(1)	「紋切り遊び」で1回折りのできる模様として、正しいものを選ぶ	B	89.9		H21	86.8	3.1	②
5(2)	「紋切り遊び」のできる模様だけにみられる図形の性質を説明する	B	65.4		H21	45.0	20.4	①
5(3)	「紋切り遊び」で3回折りのできる模様として、正しいものを選ぶ	B	61.2		H21	54.9	6.3	
6(1)	積み重ねたベニヤ板の枚数の求め方を読み、枚数を何に置きかえて考えているかを答える	C	75.3		H20	72.7	2.6	
6(2)	釘の全体の重さが分かっているとき、釘の本数を求めるために調べるものを選び、本数を求める方法を説明する	C	72.1		H20	50.3	21.8	①
6(3)	数量を求める際、別の数量に置きかえて個数を求める方法に共通する考えを選ぶ	C	55.8		H20	51.5	4.3	
7	示された事象の中から、比例の事象を選ぶ	C	40.1	H26		29.2	10.9	
8	ある郵便物の重さについて、デジタルはかりで表示された値を基に、真の値の範囲を選ぶ	D	54.7		H28	35.7	19.0	
9(1)	度数分布表やヒストグラムから、中央値を求め、その階級値を求める	D	41.6	H27		34.0	7.6	
9(2)	度数分布表から相対度数を求める	D	50.8	H27		37.8	13.0	

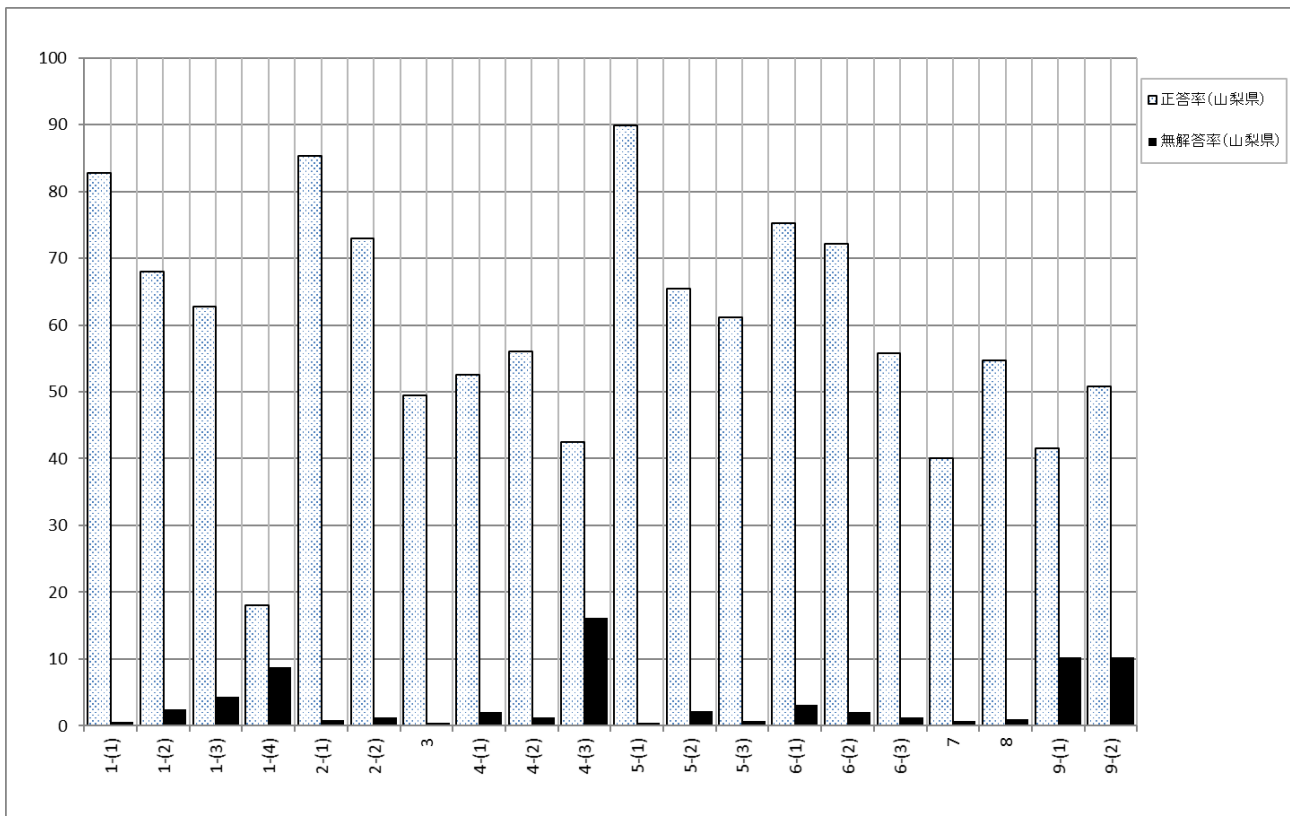
<領域> A : 数と式 B : 図形 C : 関数 D : 資料の活用

*県把握：山梨県把握調査を基に作成した設問 *全国：全国学力・学習状況調査を基に作成した設問

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【H30 調査正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	5(1)	数と式	知識理解	選択	「紋切り遊び」で1回折りのできる模様として、正しいものを選ぶ	89.9
2	2(1)	図形	知識理解	短答	ねじれの位置にある辺を選ぶ	85.3
3	1(1)	数と式	技能	短答	$6 - (-7)$ を計算する	82.8

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	1(4)	数と式	技能	短答	赤いテープの長さが a cm で、白いテープの長さの $3/5$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す	18.0
2	7	関数	知識理解	選択	示された事象の中から、比例の事象を選ぶ	40.1
3	9(1)	資料活用	技能	短答	度数分布表やヒストグラムから、中央値を求め、その階級値を求める	41.6

【過去調査と比較した正答率の差 上位3題・下位3題】

※差は、H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたものである。設問ごと、過去調査における正答率と比較し、学習内容の定着状況を分析する一助とする。

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) 〔調査年度〕	差 (ポイント)
1	4(3)	数と式	考え方	記述	基石全部の個数を、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができる理由を説明する	42.5	18.6 〔H25〕	23.9
2	6(2)	関数	考え方	記述	釘の全体の重さが分かっているとき、釘の本数を求めるために調べるものを選び、本数を求める方法を説明する	72.1	50.3 〔H20〕	21.8
3	5(2)	図形	考え方	記述	「紋切り遊び」のできる模様だけにみられる図形の性質を説明する	65.4	45.0 〔H21〕	20.4

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) 〔調査年度〕	差 (ポイント)
1	1(3)	数と式	技能	短答	$(4a-6) - 2(a-3)$ を計算する	62.8	81.0 〔H20〕	-18.2
2	1(2)	数と式	技能	短答	$a=-6$ のとき、 $-2a$ の値を求める	68.0	80.3 〔H29〕	-12.3
3	1(1)	数と式	技能	短答	$6 - (-7)$ を計算する	82.8	86.7 〔H24〕	-3.9

平成30年度山梨県学力把握調査結果の分析 中学校第2学年・英語

調査結果概況

【表1】

対象生徒数	平均正答数／設問数	平均正答率 (%) [過去平均正答率 (%)]	中央値	標準偏差
6,518人	21.3 / 31	68.7 [62.6]	22	6.82

※「過去平均正答率」は、設問ごとの過去の正答率を平均した値である。

【表2】

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の 領域	読むこと	5	60.7
	書くこと	2	64.1
	言語材料	25	69.7
評価の観点	外国語表現の能力	2	64.1
	外国語理解の能力	4	64.5
	言語や文化への知識・理解	25	69.7
問題形式	選択式	21	74.0
	短答式	5	55.6
	記述式	5	59.6

【成果 (○)・課題 (●)・対応策 (⇒)】

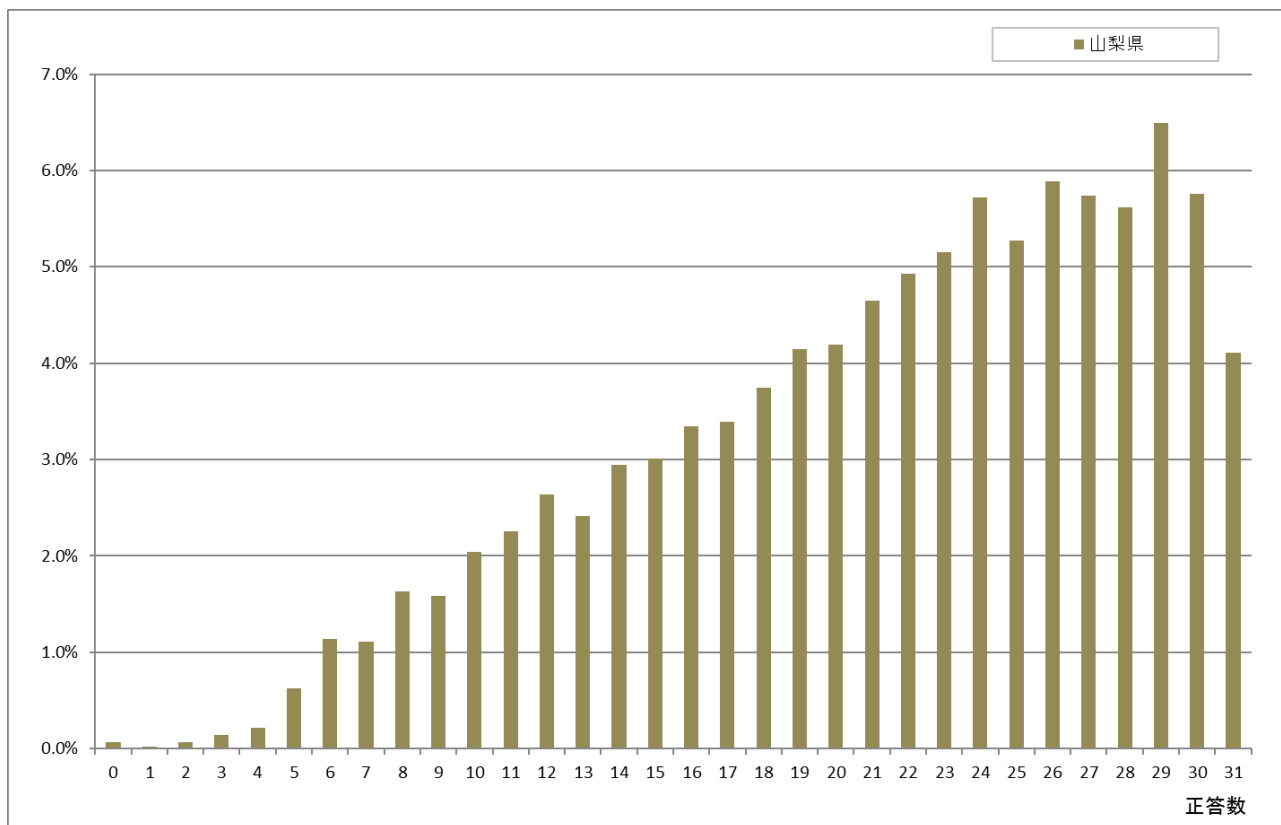
- ①「言語材料」の領域において、小学校外国語活動で十分に慣れ親しんだ表現については、正答率が高く、定着が見られる。[4(2)92.7%, 4(4)91.3%]引き続き、小学校からの接続を丁寧に取り組んでいきたい。
- ②「読むこと」「書くこと」の領域において、会話文を読み取り、状況に合った英文を書くことについて正答率が10.3ポイント上昇した。しかし正答率45.2%、無解答率25.4%であり、課題が見られる。引き続き、技能を統合した言語活動の充実が必要である。[9]
- ①「読むこと」の領域において、英文を読み、その内容を読み取ることに課題が見られる。
[8 38.2%]
⇒教科書教材等の英文の内容を読み取る学習において、訳読式に留まらず、様々な課題(T/F, Q&A, 図や表に表す)を通して、読み取る活動が考えられる。その際、生徒に何をどのように読み取らせたいかについて目的を明確にすることが大切である。
- ②「言語材料」の領域において、英文を並び替え、正しい語順で疑問文を構成することについて課題が見られる。[10(3)32.8%]
⇒必然性のある具体的な場面の中で英文を提示し、その形・意味・働きについて生徒の気付きを促すことが大切である。また、自分の思いや考えを伝え合う活動の中で、繰り返し活用し、基礎的事項の定着を図ることが必要である。

【設問ごとの正答率・過去調査との比較】※差は、H30調査正答率から過去調査正答率を引いたもの

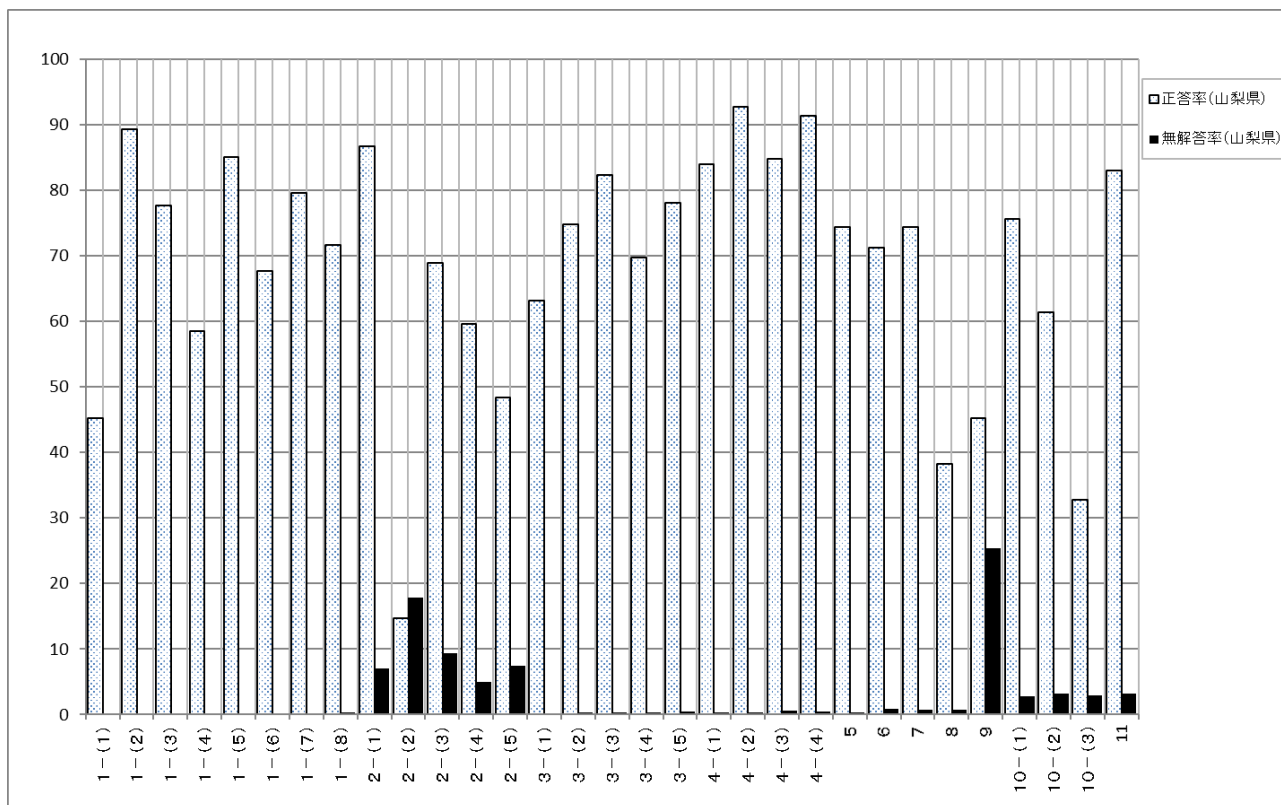
設問 番号	設問の概要	領域	H30調査	過去調査		差 (ポイント)	成果 課題
			正答率 (%)	年度	正答率 (%)		
1(1)	文にふさわしい語を選択する	言語	45.2	H25	45.4	-0.2	
1(2)	文にふさわしい語を選択する	言語	89.3	H27	89.2	0.1	
1(3)	文にふさわしい語を選択する	言語	77.6	H28	72.9	4.7	
1(4)	文にふさわしい語を選択する	言語	58.5	H25	67.6	-9.1	
1(5)	文にふさわしい語を選択する	言語	85.0	H27	84.4	0.6	
1(6)	文にふさわしい語を選択する	言語	67.6	H26	55.5	12.1	
1(7)	文にふさわしい語を選択する	言語	79.5	H25	83.6	-4.1	
1(8)	文にふさわしい語を選択する	言語	71.6	H27	69.0	2.6	
2(1)	文にふさわしい動詞を書く (be 動詞)	言語	86.7	H28	83.3	3.4	
2(2)	文にふさわしい動詞を書く (一般動詞)	言語	14.7	H28	11.8	2.9	
2(3)	文にふさわしい動詞を書く (一般動詞)	言語	68.9	H28	64.8	4.1	
2(4)	文にふさわしい動詞を書く (一般動詞)	言語	59.6	H28	58.5	1.1	
2(5)	文にふさわしい動詞を書く (一般動詞)	言語	48.4	H27	48.2	0.2	
3(1)	文にふさわしい語を選択する	言語	63.1	H28	70.4	-7.3	
3(2)	文にふさわしい語を選択する	言語	74.8	H28	67.1	7.7	
3(3)	文にふさわしい語を選択する	言語	82.3	H27	78.7	3.6	
3(4)	文にふさわしい語を選択する	言語	69.7	H28	65.7	4.0	
3(5)	文にふさわしい語を選択する	言語	78.0	H27	83.4	-5.4	
4(1)	会話の流れにふさわしい文を選択する	言語	84.0	H26	78.4	5.6	
4(2)	会話の流れにふさわしい文を選択する	言語	92.7	H26	90.0	2.7	①
4(3)	会話の流れにふさわしい文を選択する	言語	84.7	H28	84.5	0.2	
4(4)	会話の流れにふさわしい文を選択する	言語	91.3	H27	94.1	-2.8	①
5	英文の内容に合う絵を選択する	ウ	74.4	H26	67.5	6.9	
6	英文の内容に合う文を選択する	ウ	71.2	H28	69.5	1.7	
7	英文の流れに合う文を選択する	ウ	74.4	H29	68.9	5.5	
8	英文の内容に合う組み合わせを選択する	ウ	38.2	H28	35.5	2.7	①
9	英文を書く	ウ・エ	45.2	H27	34.9	10.3	②
10(1)	英語を並べ替える (助動詞の疑問文)	言語	75.6	H24	66.5	9.1	
10(2)	英語を並べ替える (一般動詞の命令文)	言語	61.4	H27	54.5	6.9	
10(3)	英語を並べ替える (一般動詞の疑問文)	言語	32.8	H26	19.5	13.3	②
11	英文を書く	エ	83.0	H29	79.0	4.0	

<領域>ア：聞くこと イ：話すこと ウ：読むこと エ：書くこと 言語：言語材料

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【設問別正答率・無解答率グラフ】（横軸：設問番号，縦軸：割合）



【H30 調査正答率 上位3題・下位3題】

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	4(2)	言語	知識理解	選択	会話の流れにふさわしい文を選択する	92.7
2	4(4)	言語	知識理解	選択	会話の流れにふさわしい文を選択する	91.3
3	1(2)	言語	知識理解	選択	文にふさわしい語を選択する	89.3

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)
1	2(2)	言語	知識理解	短答	文にふさわしい動詞を書く (一般動詞)	14.7
2	10(3)	言語	知識理解	記述	英語を並べ替える (一般動詞の疑問文)	32.8
3	8	読むこと	理解	選択	英文の内容に合う組み合わせを選択する	38.2

【過去調査と比較した正答率の差 上位3題・下位3題】

※差は、H30 調査正答率から過去調査正答率を引いたものである。設問ごと、過去調査における正答率と比較し、学習内容の定着状況を分析する一助とする。

上位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) [調査年度]	差 (ポイント)
1	10(3)	言語	知識理解	記述	英語を並べ替える (一般動詞の疑問文)	32.8	19.5 [H26]	13.3
2	1(6)	言語	知識理解	選択	文にふさわしい語を選択する	67.6	55.5 [H26]	12.1
3	9	読む書く	表現	記述	英文を書く	45.2	34.9 [H27]	10.3

下位3題

	設問番号	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	設問の概要	H30 正答率 (%)	過去正答率 (%) [調査年度]	差 (ポイント)
1	1(4)	言語	知識理解	選択	文にふさわしい語を選択する	58.5	67.6 [H25]	-9.1
2	3(1)	言語	知識理解	選択	文にふさわしい語を選択する	63.1	70.4 [H28]	-7.3
3	3(5)	言語	知識理解	選択	文にふさわしい語を選択する	78.0	83.4 [H27]	-5.4